

# 医療と介護の連携のための「入退院時連携シート」

## Q&A(改訂)

質問内容	
Q1	「サ高住」の入居者もシート活用の対象として必要ではないでしょうか？
Q2	施設入所の方は病院から連絡情報シートを返送する対象になっていませんが、ケアマネから返送の希望がありました。ケアマネから連絡を受けたケースは、全ケース返送してはどうでしょうか？
Q3	短期(1日入院)であっても連携シートを作成する必要がありますか？ 短期入院でも情報提供していますが、病院からは状態に変わりがないからとシートは発行されませんでした。
Q4	夜間入院時に、連絡情報シートを当日発行して欲しいと病院から言われました。必要な情報の引き継ぎは行うため、シートの作成・送付は翌日にすることはできないでしょうか？
Q5	連絡情報シートに診断名や処方内容の情報が必要ではないでしょうか？
Q6	食事の項目にアレルギーについてもあると良いと思いました。
Q7	連絡情報シートの認知機能の項目に“確定診断”とあるが、これは今回の入院の病名についてなのか、認知に関する診断のことなのでしょう？
Q8	フリーで記載できる欄が小さいです。
Q9	入院中に転院・転科する場合、この連絡情報シートの取り扱いはどうなるのでしょうか？
Q10	短い期間に入院を繰り返すケースで、ADLや介護情報に変化がない場合、毎回、連絡情報シートの記載の必要はありますか？
Q11	入院時情報提供書に、身障手帳等の疾病名を記載する欄があるが、障がい名はとても長く、記載する必要があるのでしょうか？領域のみの記載で連携はできるのではないのでしょうか？
Q12	ケアマネジャーが入院時や入院中の状況を知りたい時は、医療連携室を通した方が良いですか？直接病棟担当者へ聞きに行っても良いですか？
Q13	退院する時にカンファレンスを開催してもらえると助かります。
Q14	連絡情報シートの中で病棟が記載するケアマネとの退院調整に係る内容について、チェック項目以外で退院時カンファレンスの開催が想定されるのは、どんな場合でしょうか。

共通項目

病院関連

ケアマネジャー関連

# 「入退院時連携シート」Q&A(改訂)

Q1 「サ高住」の入居者もシート活用の対象として必要ではないでしょうか？

A1 「サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)」等へ入居されている方も連絡情報シート活用の対象とします。

<解説>

試行版では、サービス付き高齢者向け住宅の居住者はケアマネジャーからの情報提供のみとしていましたが、本事業の目的と実際の運用状況を鑑み、本施行版からはサービス付き高齢者向け住宅の入居者等も対象とします。

また、これまで介護老人施設や認知症高齢者グループホーム等の入居者は対象に含めておりませんでした。本シートを活用した情報の連携が、サービスを利用される方の健康生活や療養生活に利するのであれば、活用できることとします。

なお、これまでお使いになっている既存の様式による医療機関との連携を妨げるものではありません。

Q2 施設入所の方は病院から連絡情報シートを返送する対象になっていませんが、ケアマネジャーから返送の希望がありました。ケアマネジャーから連絡を受けたケースは、全ケース返送してはどうでしょうか？

A2 ケアマネジャーから連絡情報シートの送付があった全てのケースに対し、病院から連絡を返すルールとします。

<解説>

試行版では、施設入所したケースは病院から連絡情報シートの返送はしないこととしていました。

しかし、連携を強化のためには双方向の情報発信が重要であることや、連絡した双方にメリットがあることが大切であることから、ケアマネジャーから連絡情報シートの送付があった全てのケースに対して、病院から連絡情報シートを返送することとします。

ただし、ケアマネジャーから連絡情報シートの送付していたケースが死亡、管外転出、施設入所となった場合、病院医療連携室からケアマネジャーへケースの転帰について電話等により連絡することとし、必要に応じてシートの活用を考慮してください。

Q3 短期(1日入院)であっても連携シートを作成する必要がありますか？

短期入院でも情報提供していますが、病院からは状態が変わりがないからとシートは発行されませんでした。

A3 当初から短期入院(検査入院、1泊の入院など)と分かっている場合は対象から除きます。p1「本シート活用の対象」をご参照ください。

ただし、入院当初は入院期間が分からず、急遽短期間で退院するケースもあります。ケアマネジャーが連絡情報シートを病院へ送付しているケースについては、病院から必ずシートを返送してください。

Q4 夜間入院時に、連絡情報シートを当日発行して欲しいと病院から言われました。必要な情報の引き継ぎは行うため、シートの作成・送付は翌日にすることはできないでしょうか？

A4 本事業では連絡情報シートの発送は、「入院時から48時間以内」と設定していますので、当日発行しなければならないものではありません。

なお、緊急時は必要に応じて直接情報を引き継ぐなど、連絡情報シートの作成に縛られずに病院との連携を図ってください。

Q5 連絡情報シートに診断名や処方内容の情報が必要ではないでしょうか？

A5 診断名や処方内容などの診療情報については、ご本人・ご家族やお薬手帳などから把握できる基礎情報であるため、連絡情報シートの内容からは除外しています。ご了承ください。

<解説>

連絡情報シートは、入院によって変化が生じやすく在宅療養支援に特に必要となる「ADL」「意思疎通」「介護度」等の情報を入院前と退院時で比較できるよう、A4・1枚にまとめたものです。

連絡情報シートに盛り込める情報は限られていますので、シートにない項目等で情報提供が必要な場合には、関連する項目の空白に記載するか、別途記録用紙(任意様式)を添付するなどしてご活用ください。

Q6 食事の項目にアレルギーについてもあると良いと思いました。

A6 アレルギーは重要な情報ですが、全てのアレルギーを網羅すると1枚のシートにまとめることが難しいため項目化していません。関連する項目の空欄かその他の欄に記載し、連絡してください。

Q7 連絡情報シートの認知機能の項目に“確定診断”とあるが、これは今回の入院の病名についてなのか、認知に関する診断のことなのでしょうか？

A7 認知機能に関する確定診断のことです。  
ご本人の診断名・病名については、Q5のとおり、ご本人・ご家族等から把握する情報としており、記載欄は設けていません。

Q8 フリーで記載できる欄が小さいです。

A8 本連絡情報シートは、入院時と退院時の状況を比較しやすいよう、1枚の用紙に情報をまとめています。  
シートに書ききれない情報がある場合は、任意様式で資料を添付するなどしてご活用ください。

Q9 入院中に転院・転科する場合、この連絡情報シートの取り扱いはどうなるのでしょうか？

A9 連絡情報シートは、患者さんの動きとあわせて転院・転科先へ原本を送付し、送り出す病棟は写しを保管してください。  
ケアマネジャーへのシート返送は、最終の転院・転科先の病棟からの情報が返信されることとなります。

Q10 短い期間に入院を繰り返すケースで、ADLや介護情報に変化がない場合、毎回、連絡情報シートの記載の必要はありますか？

A10 本事業では、ケアマネジャーが連絡情報シートを送付するところから連携がスタートします。そのため、入院毎にシートを病院へ送付するようにしてください。  
ただし、記載内容に変更がなければ、前回のシートをコピーし、報告日を修正して活用することも可能です。

Q11 入院時情報提供書に、身障手帳等の疾病名を記載する欄があるが、障がい名はとても長く、記載する必要があるのでしょくか？領域のみの記載で連携はできるのではないでしょくか？

A11 障がい等の認定に関する疾病名の欄は、ストーマや在宅酸素の使用など、ご本人が在宅療養の際に、どのような医療的ケアや介護を必要とする状況を把握するために設けています。疾病名が長く記載が大変な場合、ご本人の状態が分かるよう簡潔な記載としていただいてもかまいません。

記載例)「呼吸器の機能の障害により自己の身の日常生活が極度に制限されるもの」  
⇒「ALSによる人工呼吸器使用」

Q12 ケアマネジャーが入院時や入院中の状況を知りたい時は、医療連携室を通した方が良いでしょくか？直接病棟担当者へ聞きに行っても良いでしょくか？

A12 初回の連絡は病院医療連携室が窓口となりますのでご一報ください。具体的な内容を担当者同士で直接やり取りしたい等のことがあるれば、病棟担当者とのつなぎを行うこともできます。なお、直接病棟にお越しになる場合、担当者が不在等のことがありますので、事前にご連絡をいただくようお願いします。

Q13 退院する時にカンファレンスを開催してもらえると助かります。

A13 カンファレンスの必要性を感じたら自ら発信し、連携をスタートさせることが大切です。ケースカンファレンス等のスムーズな調整が図れるよう、連絡情報シートの病棟記入欄に【ケアマネとの退院連絡の必要性】の項目を設けていますが、ケアマネジャーが退院時カンファレンスの必要性を感じた際には、連絡情報シートのその他の欄などにその旨を記入し、退院時カンファレンスの調整・開催に役立ててください。

Q14 連絡情報シートの中で病棟が記載するケアマネとの退院調整に係る内容について、チェック項目以外で退院時カンファレンスの開催が想定されるのは、どんな場合でしょくか？

A14 シートのチェック項目(リスクアセスメント)にある状態以外では、

- ・緊急入院だった
- ・虐待を受けている、またはその疑いがある
- ・経済的に困っている
- ・入退院を繰り返している

などが考えられます。

繰り返しになりますが、退院が困難と思われる人と感じたら、気づいた支援者・関係機関から発信しましょう。